

先週の説教要旨

『責任を果たす者』井上隆晶牧師
ルツ 2 : 17~20、4 : 13~17
マルコ 5 : 35~42

①【神は闇の中でも働いておられる】エリメレクとその妻ナオミは国が飢饉になったので、二人の息子を連れて外国のモアブに避難しました。そこで二人の息子は妻を娶るのですが、この外国の地で、夫と二人の息子は亡くなってしまい、女たちだけになってしまいました。そこでナオミは二人の嫁に、まだあなたたちは若いのだから自分たちの民の所に帰って再婚するように勧めますが、二人の嫁の内のルツだけは、お母さんにどこまでもついて行きますといひます。そこでナオミはルツと二人で故郷のベツレヘムに戻ってきました。帰ると、ナオミは町の人たちにこういひます。「どうかナオミ（快い）などと呼ばないで、マラ（苦い）と呼んでください。全能者がわたしをひどい目に遭わせたのです。出て行く時は、満たされていた私を、主はうつろにして帰らせたのです。」（ルツ 1 : 20~21）私たちは災いに会うと、神から見捨てられたと思ってしまう。ある人が「神が愛なら、なぜバビロンでイスラエルの民に 70 年間に奴隷生活をさせたのか。1 年で帰らせても良かったのではないか。」といひました。しかし神が与える苦難の 70 年には意味があるのです。このバビロンでの生活の中で、自分たちの民族性を失わないために、彼らは旧約聖書を造りました。創世記も、詩編も、バビロン捕囚の中〜後で書かれたものです。もし 70 年間の苦難がなければ、聖書は生まれなかったでしょう。神には計画があるので。

②【落穂ひろい】嫁のルツは落ち穂拾いに出かけます。彼女はたまたまエリメレ

クの一族のボアズの畑に行き、そこで落ち穂を拾いました。ボアズは彼女に厚意を示し、よその畑に行かないでここで拾うように、更に僕たちには刈り取った良い実のついた束からわざと穂を抜いて落とすように命じます。夕方ルツが落ち穂の束を背負って家に帰ると、しゅうとめのナオミは「目をみはった。」（2 : 18）といひます。ルツがことの次第を話すとナオミはこういひました。「どうか、生きている人にも、死んだ人にも慈しみを惜しまれない主が、その人を祝福してください。その人は、私たちと縁続きの人です。私たちの家を絶やさないようにする責任のある人の一人です。」

（2 : 20）ルツをボアズの畑に導いたのは神です。神は人を導き出会わせます。出会いには神の計画があるので。ナオミはこのとき、初めて神が今も働いておられるのを知ったのです。彼女の心に再び信仰の光がともし始めました。

③【責任を果たす者】この物語には繰り返し出てくる言葉があります。それは「責任のある人」、「責任を果たす」、「責任を負う」という言葉です。15 回も出てきます。イスラエルには夫が亡くなった時、その家が絶えることのないように、親族がその土地を買い取り、未亡人を妻として引き取り、子孫を残さなければならぬという決まりがありました。それを「イブム婚」といひます。最初の責任のある人がいたのですが、彼は「そこまで責任を負うことは私にはできかねます」（4 : 6）と言ってそれを辞退したので、二番目の権利のあるボアズがルツを娶りました。このルツがオベドを産み、オベドがエッサイを、エッサイがダビデを産み、このダビデの子孫がヨセフであり、キリストへと流れてゆくのです。こうしてボアズとルツはキリストの系図に載せられる先祖となりました。ここではボアズはキリストのひな形として書かれています。ア

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日 教会設立 2001 年 12 月 2 日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

E メールアドレス : miyakoch@eagle.ocn.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上 隆 晶

2023年11月26日 No.1743



《カインとアベルの献げ物》

都島教会の 2023 年度の宣教方針

標語 《希望をもって神の時を待とう》

聖句 「心を騒がせるな。神を信じなさい。

そして、わたしをも信じなさい。」（ヨハネ福音書14 : 1）

2022年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 27 名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 新会堂実現のために行動します。
- 4 皆で一つになって教会を担う意識を育てます。